

馬路町ホームページの開設

乞うご期待!!

5月開設

高度情報化社会・更なるコンピューター世界が進展する中、馬路町自治会では、ホームページを開設し、自治会が持つ情報や地域の出来事を町民の皆様、馬路町に関わりのある皆様に発信しシェア（共有）することにより、得た情報について考えたり、地域活動に参加するきっかけを提供することが期待できると共に、地域の課題解決への道筋、人材発掘、資源・資産の再発見、地域の未来が明らかになることも期待出来ます。また、馬路町に親族を残す人、ふるさと馬路を離れた人にも情報を届けられますし、移住先を探している人が関心を持つきっかけにもなります。



馬路町への「ふるさと納税」協力を呼びかけてください!

今は都会や他市町村に住んでおり、その住所地に納税をしている馬路町にご縁のある人が、自分を育ててくれた「ふるさと馬路町」にいくらかでも納税することが出来る「自治会版ふるさと納税」制度が、今年度からスタートします。

亀岡市にふるさと納税された金額の二分の一（予定）が、馬路町に還元されるしくみであり、自治会運営には大変ありがたい制度であります。

詳しくは、制度の詳細な内容説明を受けた時点で、改めて町民の皆様にお知らせし、他市町村にお住まいの馬路町にご縁のある皆様に、ふるさと納税への協力を広く呼び掛けていただきますので、その節にはよろしく願いいたします。



編集委員長 中澤 基和
副委員長 中川 俊一
委員 中澤 一二美
委員 八木 千賀子
委員 河原 和男
委員 人見 朋美

今年度より自治会議員の顔ぶれが変わり、自治会だよりの編集委員も気持ち新たにやってみようと思っております。本誌が、さらに身近なものに、より楽しく読んでもいただけるものにするために、皆様のご意見・アイデアなどお寄せください。（中澤一二美）

戦没者慰霊祭

4月15日（日）午前10時、夜半からの風雨による悪天候のため、馬路生涯学習センター2階ホールにおいて、自治会主催による馬路町戦没者慰霊祭を挙行了しました。慶應寺、照明寺ご住職読経の中、遺族の皆様をはじめ参加者全員が、戦時下とは申せ、無念の内に生涯を閉じられた戦没者のご冥福をお祈りし、戦争の悲惨さ命の尊さ、そして平和の大切さを見つめ直すと共に、「過去のあやまちを二度と繰り返さない」という平和への誓いを新たにしました。（畑一人）



訂正について

平成30年2月1日発行の自治会だより第11号において、馬路町の新成人二人の方のお名前を誤って掲載しました。大変失礼なことを致しました。お詫びして訂正させていただきます。

正：橋本怜奈（誤：楠本怜菜）
正：人見詩央里（誤：人見詩央理）

今後の行事予定

平成30年5月～9月下旬

- 5月 5日（土）自治会議員・正副区長・隣組長合同会議
- 5月12日（土）川東地区人権啓発推進協議会総会・講演会
- 5月18日（金）ふれあいサロン
- 5月20日（日）体振ふれあいソフトボール大会
- 6月17日（日）第3回町民グラウンドゴルフ大会
- 7月 中旬 地域懇談会
- 6月24日（日）亀岡市消防ポンプ操法大会（亀岡川東学園グラウンド）
- 8月15日三ツ辻区、21日元馬路、25日池尻区（未定）**盆踊り**
- 9月16日（日）馬路町敬老会（亀岡川東学園・絆ルーム）

第12号

馬路町自治会だより

発行者：馬路町自治会 平成30年5月1日 亀岡市馬路町流川2-1（TEL：0771-22-0661）印刷：(株)天声社

自治会長あいさつ

亀岡市名誉市民であり、古史の大家であった京都大学名誉教授の上田正昭先生を座長として、平成8年3月に策定された史跡丹波国分寺跡等、川東地域に豊富に点在する歴史・文化的資産の保存と継承・活用を通じて、町づくりに活かす計画が「丹波ニュー風土記の里整備構想」であります。そしてこの構想の具現化こそが古代丹波の中心地であった川東4町が、かつての輝きを取り戻す川東創生戦略の要であるものと考えます。仮称「京都スタジアム」建設に伴う川東地域の生活インフラ整備が一気に進む今日、本構想の具現化を現実のものとする大チャンスが巡ってきました。私自身、前期（平成27～29年度）に引き続き、もう1年度（平成30年度から3年間）自治会長を務めさせていただきますこととなりました。誰もが笑顔で暮らせる元気で明るい馬路町のまちづくりを、また、馬路町の発展にもつながる本構想の実現に向けて精一杯頑張りますので、今期も叱咤激励・温かいご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

【丹波ニュー風土記の里整備構想】の範囲が「京都府景観資産登録」に認定される

川東地域創生戦略の要と位置付けてきた「丹波ニュー風土記の里整備構想」のエリアを、京都府景観資産登録に認定されるべく、平成27年7月に川東4町で本構想促進協議会を設立し、亀岡市・京都府のご指導をいただき鋭意取り組んできました。その結果、「まほろばの亀岡かわひがし」古代丹波の原風景」という名称で、3月29日に山田知事から京都府第25番目の景観資産登録とする認定証を受けました。いよいよ亀岡市観光振興戦略の本丸は、主に川東4町にまたがる本構想の具現化であるとする長年の悲願が現実のものとなる状況が生まれてきたものと考えます。今後重要なことは、馬路町をはじめ川東4町を訪れる観光客への「おもてなし」をどのようにするか。地域活性化にどうつなげていくのか。また、「教育のまち馬路」を標榜する馬路町として、今日注目度が高まってきた立命館大学の創設者「中川小十郎先生」の顕彰策共々、元氣な馬路町の町づくりに向けて町民の皆様の英知を絞ることが求められるところでもあります。



（日向工房 提供）

平の沢公園中池の「花いかだ」桜の花びらがいかだのように吹き寄せられた様

桂川市長への挨拶と懇談

4月13日に新自治会議員と共に新年度の挨拶に市長室に伺いました。川東学園や保育所の話題、景観資産登録の展開に向けて、市長から、いろいろのアドバイスを頂きました。また京都スタジアム着手に伴う川東地域のインフラ整備の進捗状況も伺い、短時間ではありましたが、桂川市長の意欲的な市政運営のお話に大きな夢と希望を感じたひと時でした。（中川俊和）

